

公益財団法人ひょうごコミュニティ財団

2022 年度
事業報告書

(公益第 10 期)

(2022 年 7 月 1 日～2023 年 6 月 30 日)



公益財団法人

ひょうごコミュニティ財団

HYOGO COMMUNITY FOUNDATION

目 次

1. 概況	2
2. 事業	6
(ア) 市民活動団体への助成事業	
(1) 共感寄付事業	
(2) 「有園博子基金」事業	
(3) 「真如苑・ひょうご多文化共生・外国人支援基金」事業	
(4) 「ひょうご市民活動応援基金」事業	
(5) 「ひょうご・みんなで支え合い基金」事業	
(6) 「輝け加古川みらい基金」事業	
(イ) 市民活動団体への非資金的支援事業	
(7) 市民活動団体への非資金的支援事業	
(ウ) 市民活動活性化につながる基金・財団への支援	
(8) 他の基金等の事務局受託等	
(エ) 調査研究事業	
(9) 調査研究事業	
(オ) 寄付啓発事業	
(10) ファンドレイジング事業	
(11) 10周年記念事業	
3. 組織	27
(1) 役員、評議員、顧問、専門アドバイザー等の状況	
(2) 会議	
(3) 組織の基盤整備	
(4) 市民参加の推進（インターン、ボランティアなど）	
〈資料編〉	30
4. 決算報告	別紙
(1) 正味財産増減計算書	
(2) 正味財産増減計算書内訳書	
(3) 貸借対照表	
(4) 財産目録	
(5) 財務諸表に対する注記	
(6) 監査報告	

※附属明細書について

2022年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

1. 概況

2022年度は当財団の10年目の年であり、またコロナ禍3年目の1年でもありました。社会環境の変化は相変わらず激しく、また私たち自身も大きな変革と成長を求められた1年でしたが、引き続き多くのご支援に恵まれ、事業・組織の両面で成果と進歩を実現することができました。支援および連携をしてくださる関係者も拡大し続けています。なかなか先の見えない立ち上げ期の10年でしたが、ようやく次の10年への礎ができつつあります。ここまで支えていただいた多くの皆さまに、心から感謝申し上げます。

助成事業の進展

助成事業では、「ひょうご・みんなで支え合い基金」の終了と後継の「ひょうご市民活動応援基金」のスタート、「真如苑・ひょうご多文化共生基金」の見直しとリスタート、複数の基金を統合して行う〈合同募集〉の実施、終了した「輝け加古川みらい基金」の検証作業、などが大きなトピックでした。2022年度単年度の助成額は17,771,577円（36件）、累計で123,868,505円（407件）となりました。

コロナ禍の活動支援の「ひょうご・みんなで支え合い基金」は2020年以降3次にわたる助成を行い（計68件、総額12,142,000円）、2023年春に助成活動は終了しました。コロナ禍の中で踏ん張った兵庫のNPOに、ささやかながら一定の支援を提供できたものと考えています。482名・累計12,802,207円のご寄付に支えられ実現できたこの基金は、また地域の多くの方々の実行委員会形式で実施したネットワーク型基金活動でもありました。当財団単体でなくネットワークでこそ実現できることは多く、本基金は終了してもこの手法とネットワークは今後も生き続けると考えています（まとめのフォーラムを2023年10月に開催予定）。

2022年春に6年間の活動を終えた「輝け加古川みらい基金」は、この1年をかけてその成果と課題の検証を行いました。地域型かつ中間支援組織との連携型という特色を持つこの基金も、全国的に見ても非常にユニークな基金であり、その6年間の実践を近々報告書としてお届けします。

やはり6年間の助成を行った「真如苑・ひょうご多文化共生基金」（前半期は「ひょうご子ども応援基金」）は見直しを経て、〈多文化・在住外国人支援〉のテーマを継続して第7～9期の助成を行うこととなりました。

この基金と、大きな見直しはなく継続している「有園博子基金」、新設の「ひょうご市民活動応援基金」の3基金で〈合同募集〉を実施し、合計で162件の応募という大きな反響を得ることができました。合同募集で広報力を高めたことで県内各地に情報を届けることができ、また、分野を限らない広報をしたことで思いがけない団体からの応募もあるなど手応えを感じました。この多数の応募数は、同時に、高すぎる倍率の問題、また申請前のサポートをどう実現するかなど、多くの課題を私たちに提起しました。

非資金的支援事業の充実

当年度は、相談、研修など助成事業以外の支援（非資金的支援と呼んでいます）が大きく拡大、充実した1年でもありました。詳細は各項目（事業(7)）に譲りますが、元々、資金助成をすればするほど、資金以外のサポートの必要性も増大するということを実感しており助成以外の支援を重視していましたが、この1年で財源、体制とも充実しつつあり、助成事業との連動性も高まるとともに、助成先以外への支援も拡大しています。資金助成による支援と資金以外の支援、この両方を統合する総合的な支援の体制が整いつつあります。

資金調達（ファンドレイズ）の状況と組織

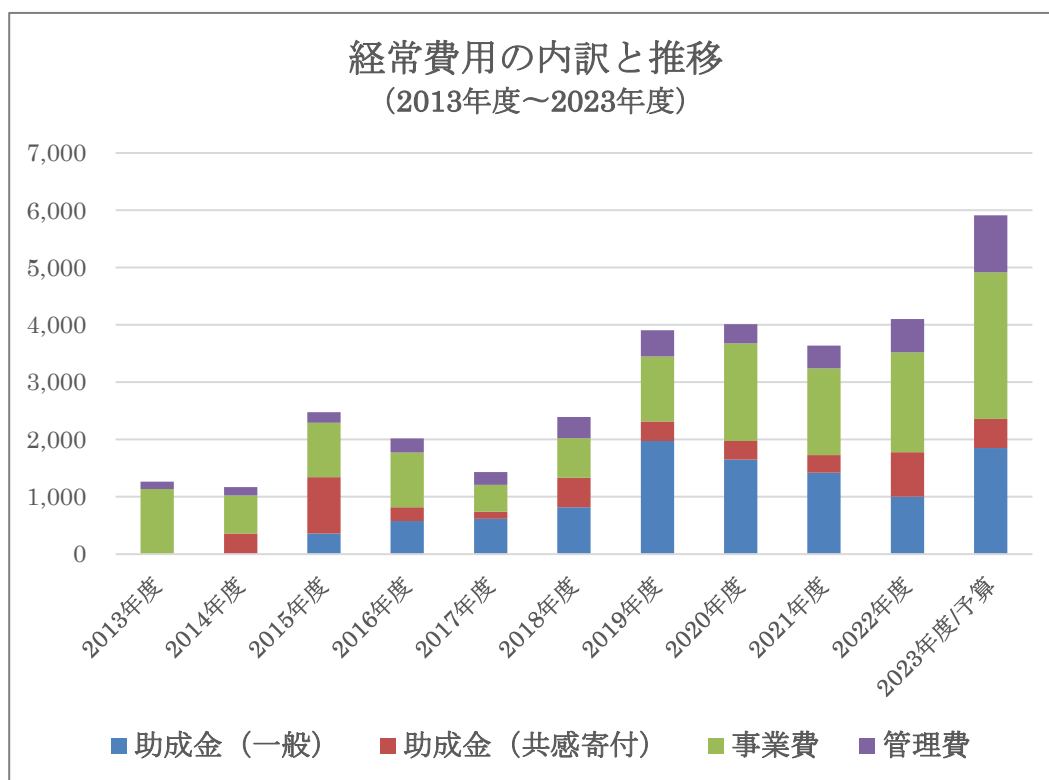
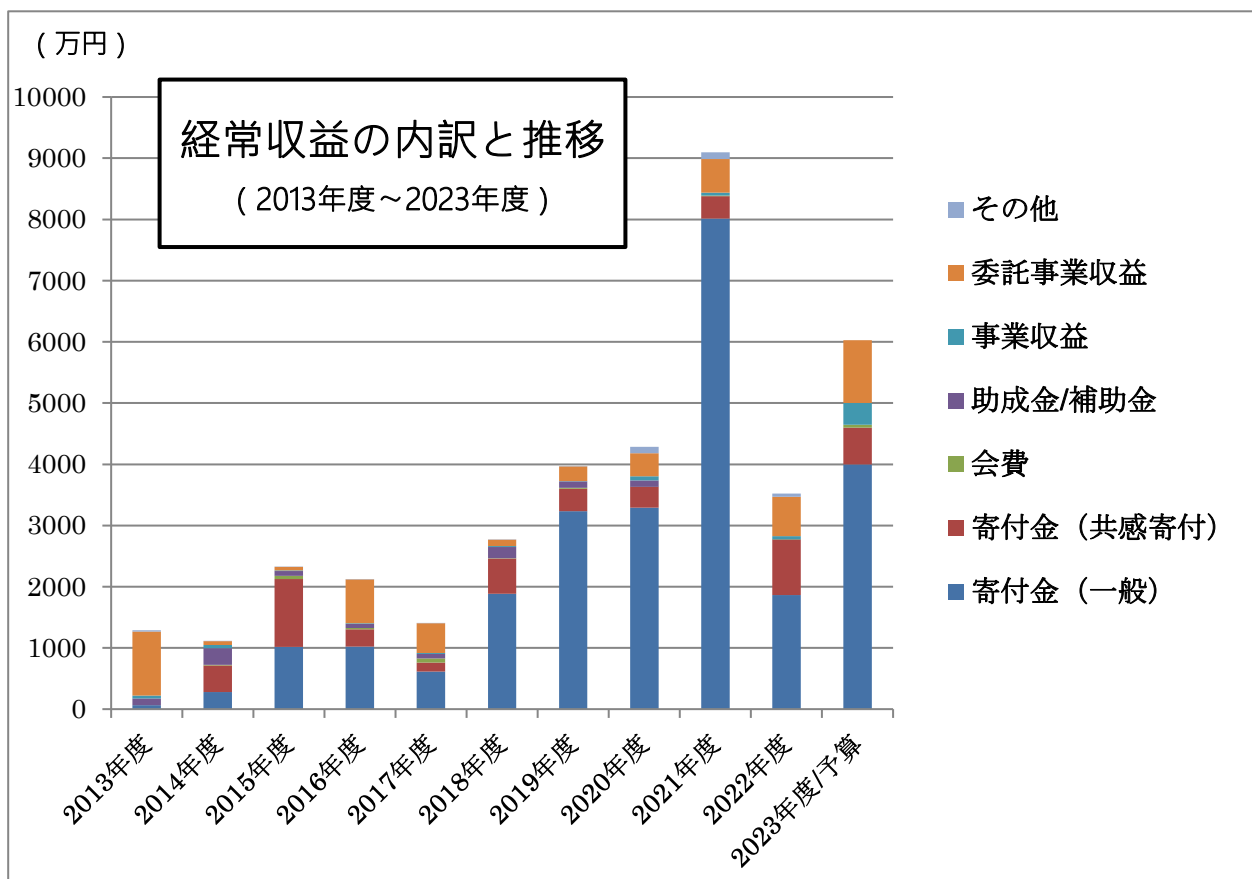
この1年間は上記のように事業は拡充、拡大したものの、課題とされてきた広報・ファンドレイズの強化には十分に取組みませんでした。行政委託事業は拡大したものの、寄付は1件の大口遺贈を除き増えておらず、単年度では大きな赤字を出しています。年度末に至りようやく広報の強化に着手し、団体のリ・ブランディングにも取組み始めました。

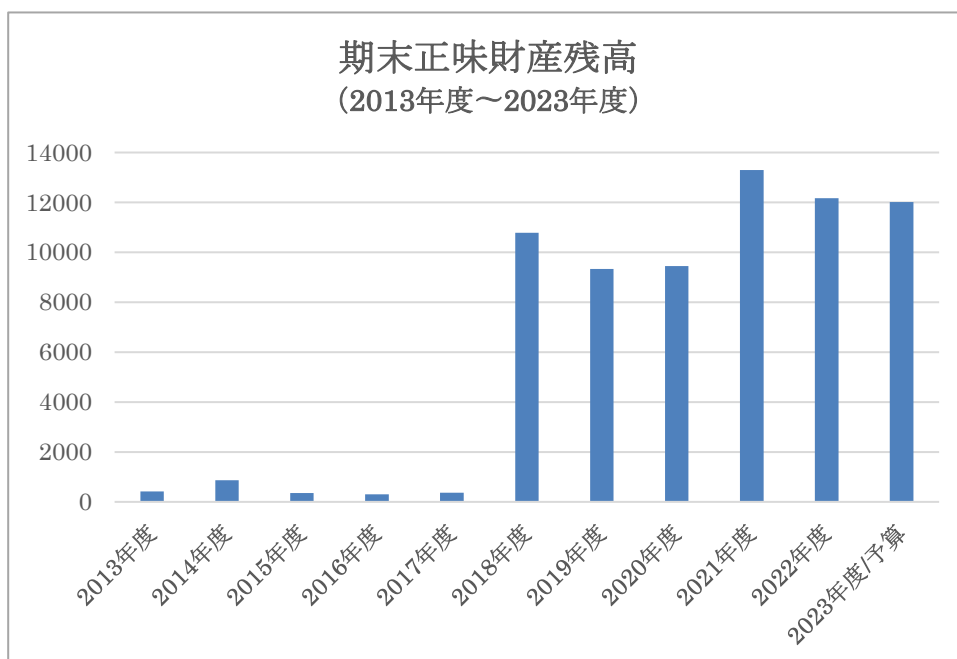
当法人は2023年6月に設立満10年を迎えました。新年度となる同11月に10周年記念フォーラムを開催すべく準備を進めています。

2023年5月には前年に続き2回目となる「ビジョン会議」（メンバー：顧問、評議員、役員、事務局スタッフなど計約30名）を開催し、10年の歩みと成果を踏まえ、次の10年の展望づくりを進めています。その内容も、上記記念フォーラムで発表する予定です。

最後に、長らく課題であった体制面ですが、2022年度末（2023年6月末）現在で常勤職員3名、非常勤職員4名という体制になり、事業実施・法人運営体制も充実してきました。

(参考)





年度	経常収益	経常費用	経常損益	正味財産期末残高	(単位：万円)
2013 年度	1,290	1,240	50	416	
2014 年度	1,111	1,170	△59	869	
2015 年度	2,325	2,480	△154	356	
2016 年度	2,121	2,017	104	307	
2017 年度	1,405	1,435	△30	361	
2018 年度	2,771	2,391	380	10,788	
2019 年度	3,968	3,907	61	9,335	
2020 年度	4,282	4,011	272	9,443	
2021 年度	9,097	3,640	5,458	13,302	
2022 年度	3,520	4,101	△581	12,174	
2023 年度 (予算)	6,029	5,898	131	12,020	

2. 事業

ア 市民活動団体への助成事業

当年度は以下の助成事業を実施した。

2022年度助成（2022年4月～2023年3月）

- (1)共感寄付事業
- (2)有園博子基金 第4期
- (3)真如苑・ひょうご多文化共生基金事業 第6期（2021年11月～2022年10月）
- (5)ひょうご・みんなで支え合い基金 第3次助成

2023年度助成（2023年4月～2024年3月）

- (1)共感寄付事業
- (2)有園博子基金 第5期
- (3)真如苑・ひょうご多文化共生基金事業 第7期
- (4)ひょうご市民活動応援基金 第1期

2023年度助成より、それまで別々に募集していた「有園博子基金」「真如苑・ひょうご多文化共生基金」「ひょうご市民活動応援基金」の3基金（事業(2)～(4)）を合同で募集し（合同募集；募集のみ合同で実施したもので、助成プログラムとしては独立）、広報・告知その他の面で大きな進展が得られた。

3年間コロナ禍の活動支援をしてきた「ひょうご・みんなで支え合い基金」は第3次助成をもって終了とし、ポスト・コロナの普遍的な課題に取り組む活動を応援するために、新プログラム「ひょうご市民活動応援基金」としてスタートした。真如苑・ひょうご多文化共生基金はテーマを多文化・外国人支援として3年を経て、リサーチ、寄付者との協議の結果同テーマで継続することとなった。

ひょうご市民活動応援基金には倍率10倍に迫る多数の応募があり、有園博子基金、真如苑・ひょうご多文化共生基金とも、応募数は増えた。募集を合同化した成果と言える。コロナ禍を経ても県内には魅力ある活動が数多く存在すること、またどの活動も旺盛な資金ニーズがあることを目の当たりにするとともに、申請前のサポートの必要性も痛感した。

6年間続いた「輝け加古川みらい基金」は2022年3月をもって第6期が終了し、当年度は6年間の基金事業の効果・成果検証のための調査を行った（2023年秋に報告書完成予定）。

共感寄付事業は、随時募集を受け付ける形にして5年半が経ったが、当年度は計5事業について9,095,170円（267件）の寄付を集め、7,730,577円の助成を実施した（累計は、計85事業に対して累計寄付額46,304,675円（2,573件）、助成が累計39,676,415円）。

以上4種の助成プログラムで、当年度は計36件、17,771,577円の助成を実施した（2023年度事業への助成）。当財団の助成額は累計で123,868,505円（407件）となった。

有園博子基金に故有園博子先生以外のご寄付があったこと、応援基金は個人（一般寄付、遺贈）・企業・団体など多くの寄付で成り立っていることも特筆しておきたい。

合同募集の実施

ひょうごコミュニティ財団の助成プログラムはこれまで個別に募集・選考を行ってきたが、2023年4月から事業年度が始まる「有園博子基金」「真如苑・ひょうご多文化共生基金」「ひょうご市民活動応援基金」について、共通の募集要項を作成し、広報や申請手続きを共通化した。

全体の共通テーマを「社会的な孤独・孤立を和らげ、また市民相互の支え合いや市民主体・市民参加のまちづくりを促進していこうという活動・事業」への支援と設定。

広報は兵庫県下のNPO法人や過去に助成を行った団体に対してチラシDMを発送したほか、県内の中間支援組織、区市町の社会福祉協議会と役所の市民活動担当部署に募集要項を送付して協力を仰いだ。

○広報・募集の流れ

2022年	12月12日	募集開始
	12月12日～16日	
		募集チラシ発送（兵庫県下のNPO法人他）
	12月20日～2023年1月10日	
		説明会開催（全8回/神戸・丹波・姫路各1回、オンライン5回）
2023年	1月25日	応募締切

○対象とした事業 社会的な孤独・孤立を和らげ、また市民相互の支え合いや市民主体・市民参加のまちづくりを促進していこうという活動・事業

(1) 共感寄付事業

「共感寄付」事業は、NPO・市民活動団体の寄付募集を、当財団の寄付控除資格を活用して集め、当該団体に助成というかたちで支援し、当該団体のめざす地域の課題を解決したり公益的活動を増進したりしようとする事業（仕組み）である。

これまでに累計で5300万円超の寄付を集め、102事業に約4600万円の助成を行ってきた。当初は2012年、(特活)市民活動センター神戸(KEC)の事業として始まったが、2014年度から当財団に事業移管している。2017年度からは、第5期が6年間継続中である。

実施報告

第5期共感寄付事業は、3団体が寄付募集を継続実施中であり、今年度新たに2団体が寄付募集を開始した。

第5期の寄付額は2023年6月末まで累計28,097,488円、2022年度中の寄付額は9,095,170円、助成額は7,730,577円である。2017年、第5期として「常時募集」の形でスタートして6年目になるが、今年度は、第5期の前年度までの5年間の平均値380万円の2倍強とこの6年で最も多くの寄付を集めることができた。大口の寄付が見られたことが大きい要因である。

今後も随時、希望団体からの問合せ受付、応募に丁寧に対応する形を取っていく予定であり、当財団年度末にかけ、数団体からの問合せおよび事前相談が寄せられている。(担当：大田、永田)

◇寄付募集事業、団体および寄付額

(単位：円)

事業名	団体名	2022年度中の寄付額	2022年度中の助成額	累計寄付額	寄付募集期間
ホームレス状態、安定した住居がない方への支援活動	(特活)神戸の冬を支える会	2,226,170	1,891,927	12,663,260	2017/11/20 ~2024/3/31
知的障害者とアーティストによる即興音楽プロジェクト	音遊びの会	16,000	13,600	736,215	2018/4/13 ~2023/12/31
塾に通えない中学生に無料学習支援を行う「神戸みらい学習室」を継続したい	神戸市職員有志	4,766,000	4,051,100	5,907,000	2019/12/19 ~2023/12/31
離婚により離れ離れになった親子の面会を支援する活動	(特活)家族支援センター・クローバー	530,000	450,500	530,000	2022/10/1 ~2024/3/31
奥田純子ゆめ基金	奥田純子ゆめ基金	1,557,000	1,323,450	1,557,000	2023/2/1 ~2024/9/30
(計)		9,095,170	7,730,577	28,097,488	



音遊びの会
音楽演奏の様子



神戸市職員有志
学習支援風景

【選考委員】（敬称略）

委員長	藤井洋一	(株)神戸新聞社 論説委員
委員	関谷善行	(株)日本政策金融公庫 神戸支店 神戸創業支援センター所長
委員	竹谷昭宏	兵庫県企画県民部 次長

(2)「有園博子基金」事業

本基金は、2017年12月に逝去された故有園博子さん（兵庫教育大学教授＝当時）の遺贈により2018年8月に設立された。臨床心理士、精神保健福祉士として、また教育者として、DVや性暴力、犯罪の被害者、虐待された子ども、事故の被害者など、深い傷を負った人たちの支援と支援者育成に長く精力を傾けてこられた故人のご遺志を受け、①DV被害者、②虐待された子ども、③性暴力の被害者、④JR福知山線脱線事故のご遺族の4分野に対する支援もしくは支援のための研究を行う団体・個人を支援している。

実施報告

当年度は、2022年4月スタートの第4期助成事業を実施いただくとともに、2023年4月開始の第5期の企画、準備を行い、2022年12月から公募を開始した。

第5期の企画委員会（2022年9月開催）では、第3期から始めた「組織基盤強化」への集中を継続しつつ（組織基盤強化コース）、小規模な助成枠「活動応援コース」（上限30万円）を継続して設けた。第2期からの継続助成（3年間）は第4期までで終了し、連続3期の助成を行った団体は第5期の申請を受け付けないこととした。

それにもかかわらず、ほぼ前期同等の11件の応募があり、うち8件が新規の申請だった。これは合同募集で、これまで以上に広い範囲に広報を行った効果が大きかったと言える。

第5期は組織基盤強化コース・活動応援コースで計5件（計3,471,000円）の助成を実施した。

また、第4期も伴走支援（アドバイザー派遣）を組織基盤強化の一環として実施し、3団体に計19回のアドバイスやワークショップ等を実施した。第5期は6団体に対して伴走支援を行う予定である。

（担当：実吉、奥田、福田、永田）

【企画、募集と選考の流れ〈第4期〉】

○助成期間

「組織基盤強化コース」 2022年4月1日～2023年3月31日

「活動応援コース」 2022年4月1日～2023年3月31日

「継続助成」3年目 2022年4月1日～2023年3月31日

○伴走支援（アドバイザー派遣）

実施 3団体（19回実施）

※実施一覧は「事業（7）②」参照。

【企画、募集と選考の流れ〈第5期〉】

○助成期間

「組織基盤強化コース」 2023年4月1日～2024年3月31日

「活動応援コース」 2023年4月1日～2024年3月31日

○選考の流れ

2022年 9月8日 第5期企画委員会開催（オンライン）

12月12日 第5期募集開始

2023年 1月25日 活動応援コース、組織基盤強化コース応募締切

3月17日 第5期選考委員会開催

6月9日 キックオフミーティング

○応募状況と採択団体

〈組織基盤強化コース〉

応募 7件

採択 4件（採択総額 3,271,000円）

〈活動応援コース〉

応募 4件

採択 1件（採択総額 200,000円）

※採択団体一覧は末尾の資料編に記載。



ウィメンズネット・こうべの新長田の活動拠点「Wacca」（当時）でのヒアリング（2022.8.31）



3年ぶりに対面で開催したキックオフミーティング（2023.6.9）

【企画委員】（敬称略／肩書きは委員会開催当時）

- | | | |
|----|-------|----------------------------------|
| 委員 | 岩井圭司 | 兵庫教育大学 大学院 教授 |
| 委員 | 柏木登起 | （特活）シミズシーズ 代表理事 |
| 委員 | 勝木洋子 | 前姫路日ノ本短期大学 学長（2023年6月末企画委員退任） |
| 委員 | 竹端寛 | 兵庫県立大学 環境人間学部 准教授（2022年7月企画委員新任） |
| 委員 | 仁科あゆ美 | （一財）大阪府男女共同参画推進財団 理事・本部長 |
| 委員 | 西部智子 | 法律事務所ユノ 弁護士 |
| 委員 | 増井香名子 | 日本福祉大学 社会福祉学部 准教授 |

【選考委員】（* = 企画委員と兼任；敬称略／肩書きは委員会開催当時）

- | | | |
|-----|-------|-------------------|
| 委員長 | 岩井圭司 | * |
| 委員 | 石田賀奈子 | 立命館大学 産業社会学部 教授 |
| 委員 | 仁科あゆ美 | * |
| 委員 | 西部智子 | * |
| 委員 | 三井ハルコ | （特活）市民事務局かわにし 理事長 |

(3)「真如苑・ひょうご多文化共生基金」事業

本基金は宗教法人真如苑によるご寄付を原資に「多文化共生・在住外国人支援」を対象分野として、とりわけ貧困や暴力、差別に苦しむ人々への支援に資する取り組みを優先的に支援している。日本人の貧困問題、とりわけ「子どもの貧困」については社会全般の認識が進みつつある一方で、外国人に対しては人々の意識の面でも公的制度の面でも大きく取り残されている。

改正入管法が2019年4月に施行され、日本で働く外国人労働者数が過去最高を更新しているが、社会の対応は十分ではなく、日本社会においては多文化・多民族の共生が大きなテーマになっている。本基金の資金助成により、兵庫県内で多文化共生・外国人の支援の活動を行うNPO等に活動の充実・拡大と、活動する団体の発展（キャパシティ・ビルディング）を図っていく。

実施報告

昨年度（2021年度）に引き続き「多文化共生・在住外国人支援」を対象分野として、本年度より本基金は原則3ヵ年の継続プログラムを実施する。公募型の助成の実施に併せて、神戸・阪神間を超えた兵庫県下での多文化共生ネットワークの構築を行う。兵庫県下全域のNPO法人に「ひょうご市民活動応援基金」「有園博子基金」との合同発送を実施。神戸阪神10団体、神戸阪神外6団体の計16団体から応募いただき、神戸阪神3団体、神戸阪神外4団体の計7団体を採択し総額137万円の助成を決定した。

キックオフミーティングは2023年5月29日にこうべまちづくり会館3F多目的室にて、真如苑2名、助成先団体10団体13名、多文化共生分野活動団体2団体2名、事務局4名が参加、選考委員2名はオンライン参加し合計23名で実施した。現在や今後の活動について活発な発表、意見交換が続いた。翌日は今後の基金の参考にするためにも真如苑のご担当様とともに3団体を訪問し、ヒアリングを行った。

(担当：長澤、福田、永田)

【募集と選考の流れ〈第6期〉】

○助成期間 2021年11月1日～2022年10月31日

【企画、募集と選考の流れ〈第7期〉】

○助成期間 2023年4月1日～2024年3月31日

○選考の流れ

2022年 12月12日 第7期募集開始

2023年 1月25日 応募締切

3月17日 第7期選考委員会開催

6月9日 キックオフミーティング

○応募状況と採択団体

応募 16団体（神戸阪神 10団体、神戸阪神外 6団体）

採択 7団体（神戸阪神 3団体 採択額800,000円、神戸阪神外 4団体 採択額570,000円）

（採択総額1,370,000円）

※採択団体は末尾の資料編に記載。

【選考委員】（敬称略/肩書きは委員会開催当時）

委員長 武田丈 関西学院大学人間福祉学部 教授
委員 石田賀奈子 立命館大学産業社会学部 教授
委員 小澤昌甲 (社福)神戸YMCA福祉会 常務理事
委員 原島照司 真如苑 社会交流部社会交流課
委員 横川太 (公財)兵庫県国際交流協会 専務理事



キックオフミーティングでの活動発表の様子
各助成先団体より助成事業の報告・計画発表を行った。



キックオフミーティングでの交流会の様子
助成先団体に地域の諸団体や真如苑様を加えた交流から、連携基盤の構築を進める。

(4) 「ひょうご市民活動応援基金」事業

ひょうごコミュニティ財団では、寄付者の意思を尊重して名称や目的を設定する冠基金を運営している。一定規模の基金は前述の有園博子基金や真如苑基金のように個別の助成プログラムを設定しているが、「ひょうご市民活動応援基金」はこうした基金による助成を、事務や選考過程を共通化して行うものである。助成に関わる事務や選考過程を共有することで、小口の寄付を元にした基金でも、寄付者の意志を尊重しながら、より多くの浄財を助成に充てることができる。

2023年4月～2024年3月末を第1期の事業年度として、初めて募集を行った。2023年3月末で事業期間を終了した「ひょうご・みんなで支え合い基金」は新型コロナ禍で困難に立ち向かう市民活動を支援するプログラムだが、新型コロナ禍が落ち着きつつある中でもなお支援を必要とする市民活動が多い。本基金は「ひょうご・みんなで支え合い基金」の活動を受け継ぎ、日常の兵庫県下で活動する市民活動を応援していく位置づけでもある。

実施報告

第1期で募集した基金は下表の通り6つあり、いずれも個人・法人（企業）の浄財により設立されたものである。いずれの基金も、社会的な孤独・孤立の緩和や、市民主体・市民参加のまちづくり推進に役立てたいという趣旨は共通している。

全体としては「孤独・孤立の解消」というテーマを掲げたが、寄付者の意向に基づいた「子ども」「高齢者」「その他」の分野を設定し、それぞれの助成金に充当した。

第1期は135件・61,858,000円の応募があり、選考の結果、17件・5,200,000円の申請を採択した。倍率は9.8倍となったため、より困難な課題に取り組む活動や、事業の組み立てが堅実な案件が優先的に採択される傾向があった。一方で深刻度は低いながらも地道な取り組みを続ける案件や、切実なテーマながらも事業・組織の組み立てが未熟な案件が選に漏れたが、地域の地道な取り組みを支えるのもコミュニティファンドの役割であり、何らかの配慮を検討していきたい。

地域別の採択団体は神戸・阪神間が13件、それ以外の兵庫県域からは4件と、神戸・阪神間の割合が高い結果となった。地方部は活動の蓄積や助成申請の経験が少ない面もあったと考えられ、今後は各地の中間支援組織と協力しての、助成申請の前段階でのサポートも検討したい。

(担当：実吉、福田、大田、長澤、奥田、永田)

第1期で募集した基金	中村毅一郎・婦美乃基金	子ども支援	子ども分野 両基金で計 300 万円
	ASAHI-MITSUHASHI 基金	医療・子ども支援	
	岸鶴夫基金	高齢者支援	高齢者分野 両基金で計 60 万円
	光子基金	高齢者支援	
	實吉一夫基金	分野限定なし	その他の分野 両基金で計 160 万円
	匿名基金	分野限定なし	

【企画、募集と選考の流れ〈第1期〉】

○助成期間 2023年4月1日～2024年3月31日

○対象とした事業 社会的な孤独・孤立を和らげ、また市民相互の支え合いや市民主体・市民参加のまちづくりを促進していこうという活動・事業

○選考の流れ

2022年	12月12日	第1期募集開始
2023年	1月25日	応募締切
	2月13日	第1期選考委員会（2次選考）準備会合（オンライン）
	2月15日	第1期1次選考会
	3月22日	第1期選考委員会（2次選考）事前会合（オンライン）
	3月27日	第1期選考委員会（2次選考）開催（対面・オンライン併用）

○応募状況と採択団体

応募 135団体

採択 17団体（採択総額 5,200,000円）

※採択団体は末尾の資料編に記載。



オンラインと対面を併用して開催した選考委員会
(2023.3.27)

【選考委員】（敬称略/肩書きは委員会開催当時）

委員長	坂西卓郎	(公財)PHD協会 事務局長
委員	荻野俊子	NPO会計支援センター 代表
委員	竹森莞爾	(公財)ひょうごコミュニティ財団 理事
委員	谷口享子	(株)オフィスマーメイド 代表取締役
委員	李政元	関西学院大学人間福祉学部 教授
委員	李裕実	(特活)多言語センターFACIL 事務局長

(5) 「ひょうご・みんなで支え合い基金」事業

2020年5月に地域の皆さんとともに立ち上げた、コロナ禍の支援活動を支援するための「ひょうご・みんなで支え合い基金～コロナから始まる共助社会～」は、2020年夏、2021年春、2022年春と3回の公募助成（計68件、総額1,214,2000円）を実施した。当年度については、2022年度助成の事業実施とその管理、情報発信、報告の取りまとめなどを行い、後述のように基金終了への準備を行った。

第3次助成（2022年度） 2022年4月～2023年3月 26件（総額4,970,000円）

（参考）

第1次助成（2020年度） 2020年2月～2021年3月 29件（総額4,672,000円）

第2次助成（2021年度） 2021年4月～2022年3月 13件（総額2,500,000円）

累計 68件（総額12,142,000円）

コロナ禍はまだ終息したとは言えないが、「コロナ禍における緊急支援」としての役割は終えたと判断し、2023年度の助成事業は行わず、基金についても終了することを決定した。基金の役割は、コロナ禍以降の市民活動一般の助成として新たな『ひょうご市民活動応援基金』に継承していく。

基金終了にあたっては、これまでの活動をウェブサイトの中で再整理しアーカイブ化することに加えて、3年間の活動をご寄付やボランティアで支援いただいた皆さま、助成を行った兵庫県内の市民団体の皆さま、「オール兵庫」としてプログラムにご協力くださった皆さまなどを主な対象とした「支え合い基金報告フォーラム（仮称）」を、2023年10月に開催することを決定した。

（担当：実吉、永田、奥田）

【実行委員】（敬称略）2023年6月末時点

委員長	頼政良太	被災地NGO 協働センター代表
委員	青田良介	兵庫県立大学 減災復興政策研究科 教授
委員	浅見雅之	(特活)神戸まちづくり研究所 理事・事務局長
委員	大島一晃	(特活)場とつながりの研究センター 理事・事務局長
委員	柏木登起	(特活)シミズシーズ 代表理事
委員	熊谷 哲	(特活)はりま里山研究所 理事長
委員	小嶋 新	元(特活)しゃらく 執行役員
委員	坂西卓郎	(公財)PHD 協会 理事・主任主事
委員	佐藤敬生	(一社)まち・ヒト・未来創造研究所 代表理事
委員	実吉 威	(公財)ひょうごコミュニティ財団 代表理事
委員	津久井進	弁護士、芦屋西宮市民法律事務所
委員	東末真紀	個人
委員	永田譲蔵	(公財)ひょうごコミュニティ財団 理事
委員	中山光子	(認定特活)宝塚NPO センター 理事長
委員	藤尾さおり	(特活)そらしど 代表理事
委員	松田康之	元(公財)神戸YMCA 職員
委員	村上桂太郎	(特活)多言語センターFACIL 総務部長

(6)「輝け加古川みらい基金」事業

加古川市在住の神川都様のご寄付により運営している本基金は第6期（事業期間2021年4月～2022年3月末）をもって終了した。

2016年度に「輝け加古川こども基金」として子どもや若者の支援のための基金を開始し、第4期以降は男女共同参画として女性の活躍などの支援を加えた「輝け加古川みらい基金」として実施した。6年間の助成総計は107件、助成総額は18,019,730円となった。

基金の終了に伴って、協力団体の（特活）シミズシーズと6年間の成果を検証した冊子を作成することとした。作成にあたっては、全助成団体を対象としたアンケート調査を行うとともに、助成先の団体をお迎えした座談会を開催し（2回）、特徴ある助成先（4団体）への訪問を行った。冊子は2023年秋の完成を予定している。（担当：永田、奥田、実吉）

【協力】（特活）シミズシーズ

○検証作業の流れ

- | | | |
|-------|--------|--|
| 2022年 | 7～8月 | アンケート調査実施（52団体に発送、37団体から回答） |
| | 10月11日 | 座談会①（3団体）（於：かこむ） |
| | 10月18日 | 座談会②（3団体）（於：かわのまちリビング） |
| | 10月20日 | ヒアリング訪問（きらきら協会） |
| | 10月21日 | ヒアリング訪問（（特活）子育てサポート☆きらりing、（特活）OneHeart） |
| | 10月27日 | ヒアリング訪問（ボーイスカウト第5団） |

※期間中に（特活）シミズシーズとの調整会議8回（対面2回、オンライン6回）



まとめ冊子作成のための座談会（かわのまちリビングにて）（2022年10月28日）



（特活）OneHeart様を訪問してのヒアリング（2022年10月21日）

イ 市民活動団体への非資金的支援

(7) 市民活動団体への非資金的支援事業

資金助成をより有効にするために、従来から相談・情報提供、研修、伴走支援といった非資金的支援をNPOの持続と成長の支援として不可欠な事業として重視してきたが、当年度この部門は大きく拡大した。認定NPO法人支援の業務以外に、広く市民活動団体・NPOを対象とするセミナー事業を神戸市から受託し（事業④）、それに伴って個別の相談も増加した。

NPOへの伴走支援は、引き続き有園博子基金の助成先団体に限って実施したが、団体の転換期や立ち上げ期に有効な支援が実施できている。

「(4) ひょうご市民活動応援基金事業」の結果から見ても、助成以外の、あるいは助成申請をいただく前段階での、相談その他の支援は必須である。上記④事業は原則として神戸市内の団体が対象であるため、神戸市外の団体への支援方策と体制・財源整備を進めていく必要がある。

(担当：実吉、奥田、福田、大田、永田)

①相談事業

助成先に限らず、NPO等からの個別の相談に応じている。内容としては、資金調達（当財団の助成以外）、およびそこから派生する組織づくりが多いが、法人化や事業推進、ネットワークづくりなど、多様なものが含まれている。

②伴走支援（アドバイザー派遣）の実施とその研究会開催

当年度も有園博子基金の助成先団体において伴走支援を実施した。

有園基金第4期（2022年4月～2023年3月）は3団体に対して実施し、第5期はこれに加えて新たに3団体の支援を行う。

団体名	担当アドバイザー	支援内容	派遣回数※1
(特活)性暴力被害者支援センター・ひょうご	柏木輝恵	団体のミッションと戦略の再構築、その団体内共有	7回
(特活)フェミニストカウンセリング神戸	河合将生	組織基盤強化全般（事業と組織の整理、会議と事務処理、行政との交渉など）	9回
(特活)男女共同参画ネット尼崎	河合将生	基盤強化学習会	3回
面会交流支援センターピロティ※2	柏木輝恵	第5期からの派遣	事務局ヒアリング
たねとしずく	河合将生	第5期からの派遣	事務局ヒアリング
CocoKara ルームそら	6月末段階未定	第5期からの派遣	6月末段階未定

※1 いずれも2022年7月～2023年6月の件数

※2 面会交流支援センターピロティに対しては、第4期の期間中に「助成金申請、それに応じて団体の基礎情報、方針の整理」の内容で、事務局が相談対応を行った。

【アドバイザー】（敬称略）

荻野俊子 NPO会計支援センター 代表
柏木輝恵 (特活)シミズシーズ 事務局長
河合将生 office musubime代表
小嶋新 (特活)しゃらく執行役員 ※2023年3月まで
東末真紀 個人

③「認定 NPO 法人相談窓口事業」（神戸市委託）の受託・実施

「認定 NPO 法人相談窓口事業」を、2022 年 4 月～2023 年 3 月、2022 年 4 月～2023 年 3 月に当財団が受託した。窓口開設及び出張相談では、認定 NPO 法人制度の基礎知識や具体的な申請手順、認定取得後の義務、所轄庁の監督について説明し、団体の状況に応じたアドバイスを行った。

当事業の成果としては、認定 NPO 法人取得・更新に係る多様な支援を行うことで神戸市内の認定 NPO 及び取得希望団体に対して寄付を集めることのできる基礎的な知識を提供できたこと、そして神戸市所管の認定 NPO 法人と当財団の関係性が深まり、圏内のネットワーク形成が出来つつあることが挙げられる。

- 1) 認定 NPO 法人制度及び認定取得・更新のための組織運営（会計含む）に関する相談窓口
2022 年 7 月～2023 年 3 月：22 団体計 38 回、2023 年 4 月～2023 年 6 月；4 団体計 9 回
- 2) 認定取得・更新のための組織運営（会計含む）に関する出張相談
2022 年 7 月～2023 年 3 月：7 団体計 7 回、2023 年 4 月～2023 年 6 月；0 回
- 3) 認定 NPO 法人制度及び認定取得・更新のための組織運営（会計含む）に関する説明会の企画・開催
2022 年度実施分（いずれもリアル・オンライン併用）
 - 【1】認定NPO法人制度入門講座
2022年7月28日 参加数：14名
 - 【2】監事スキルアップ講座
2022年8月3日 参加数：13名
 - 【3】認定NPO法人申請のための、「NPO法人の運営基礎」確認講座
2022年8月9日 参加数：14名
 - 【4】認定NPO法人を目指す団体向けの「会計」スキルアップ講座
2022年11月21日 ①正しい会計と仕訳の基礎 参加数：17名
2022年11月28日 ②出納帳から決算書作成へ 参加数：16名
- 4) 認定 NPO 法人の組織基盤強化等に向けた学習会・情報交換会の企画・開催業務
神戸市管轄の全認定 NPO 法人に呼びかける学習会・情報交換会を 2 回行った。
2022年8月30日 学習企画「認定更新のための注意事項 ～5年後の更新を安心して迎えるために～」オンライン開催（参加数：9団体14名）

5) 認定 NPO 法人の実態把握のためのカルテの作成業務

神戸市管轄の全認定 NPO 法人 25 団体を対象としたカルテ作りを行った。各団体の実務担当者とオンラインによる面談を行い、事務局体制や現在の課題、次回更新に向けた課題などを確認。市内の認定 NPO 法人の実態を把握するとともに、認定更新へ向けての相談につなげる資料とした。

④「地域課題に取り組む NPO 等に対する運営支援業務」（神戸市委託）の受託・実施

「地域課題に取り組む NPO 等に対する運営支援【セミナー等】業務を、2022 年 7 月～2023 年 3 月に当財団が受託した。セミナー等事業では、主に初心者向けの「オンライン学習会」、中上級者向けの「組織基盤強化セミナー」、全体が集まるリアル開催の「交流会」を実施した。（詳細は資料編参照）

1) オンライン学習会

2022 年 11 月～12 月：「おはなしカフェ」（第 1 シリーズ）全 5 回+Zoom 講座 1 回、のべ 68 名（53 団体）参加。

2023 年 1～3 月：「おはなしカフェ」（第 2 シリーズ）全 6 回、のべ 58 名（48 団体）参加。

2) 組織基盤強化セミナー

2023 年 2～3 月：「NPO 実践セミナー」全 4 回、のべ 80 名（64 団体）参加。

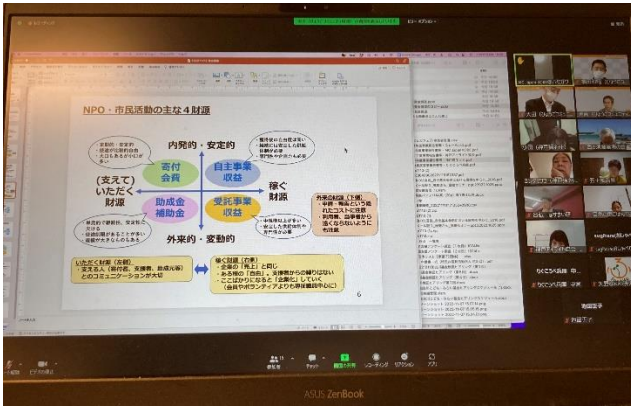
3) 交流会

2023 年 2 月 10 日（金）こうべまちづくり会館 2F ホールにて実施。10 名（8 団体）参加。

計 3 事業の合計実施回数は 17 回、参加人数はのべ 216 名、参加団体はのべ 173 団体である。掲げた目標は概ね達成でき、「おはなしカフェ」では、いつでも気軽に情報が得られ、仲間を探せる場があるという感覚を持っていただけたのではないかと思われ、「組織基盤強化セミナー」では、広報・資金調達・マネジメントという 3 つのテーマにおいて、学びたい人に専門的な知識を提供することができた。事後に行ったアンケート調査では、いずれも、「とてもよかった」「よかった」で 9 割以上を占めていたことからその満足度を測ることができる。

神戸市の企画が年度途中であったこともあり、実質、実働 5 か月間に 17 回（ノルマは 16 回）のセミナー等の実施は、受講する団体によってはやや供給過剰であったかもしれない。神戸市には、年度当初からの実施を望みたいところである。

今回の企画は概ね成功裏に終わったが、より多くの団体に、こうした試みの良さを実感してもらうために、適切な広報の打ち方、こまめな誘導のあり方をさらに検討していきたいものである。



「おはなしカフェ」
オンライン学習会の様子

ウ 市民活動活性化につながる基金・財団等への支援

(8) 他の基金等の事務局受託等

①住友ゴム工業 CSR 基金のサポート事業

本事業は、住友ゴム工業株式会社が従業員から募金を任意で集め、その募金と同額を会社が負担するマッチングギフトにより地球環境問題や社会問題解決に向けた多様な CSR 活動を支援するものである。助成先は、ひょうごコミュニティ財団が推薦した団体を同社内部で選考し決める。

今年度は4団体の推薦（内1団体は加古川工場の推薦枠）となり総額117.9万円の助成となった。

（担当：長澤、大田、永田）

※採択団体は末尾の資料編に記載。



植樹会後の集合写真（（特活）ひょうご森の倶楽部）



視覚障害を持たれる方が二人乗りタンダム自転車を楽しまれる様子（（特活）兵庫県障害者タンデムサイクリング協会）

(9) 調査研究事業

①政府の「孤独・孤立対策」や休眠預金等活用制度への政策提言

当年度は積極的な動きはしていないが、1)引き続き「孤独・孤立対策」に関連して新担当大臣（小倉大臣）への面談、2)休眠預金のヒアリングの際の意見表明（休眠預金議員連盟、指定活用団体JANPIA）等を行った。また、自民党参議院議員の勉強会にも招かれ、NPO支援・市民活動支援のあり方について意見陳述を行った。（担当：実吉）

実施内容

2022年

- 10月7日 休眠預金議連ヒアリング（実吉；オンライン）
- 10月11日 JANPIAからのヒアリング（実吉；オンライン）
- 10月31日 小倉将信大臣（孤独・孤立担当）面談（実吉；オンライン）
- 11月25日 自由民主党・参議院「不安に寄り添う政治のあり方勉強会」講師（実吉）

②委員等の受任

- ・ひょうご中間支援団体ネットワーク 世話団体
- ・神戸市居住支援協議会 正会員団体
- ・NPO 法人会計基準協議会 世話団体
- ・災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議 委員（実吉）
- ・NPO・市民活動支援共有ミーティング「わくわく会議」世話人（実吉）
- ・（特活）市民社会創造ファンド 理事（実吉）
- ・公益財団法人（団体名非公開）助成プログラム 選考委員（実吉）

③講師派遣の実績

- 2022年 7月9日 ふるさとひょうご創生塾（実吉）
- 7月12日 丹波同友会（実吉）
- 2023年 4月8日 明石コミュニティ創造協会・助成金セミナー①（長澤）
- 4月15日 明石コミュニティ創造協会・助成金セミナー②（長澤）

④加盟している団体・学習会

- ・ひょうご市民活動協議会（HYOGON）（団体正会員）
- ・ひょうご中間支援団体ネットワーク（加盟団体）
- ・ひょうご福祉ネット（団体正会員）
- ・日本NPOセンター（団体正会員）
- ・NPO 法人会計基準協議会（団体正会員）
- ・NPO 会計税務専門家ネットワーク（NPO@PRO）（団体正会員）
- ・全国レガシーギフト協会（団体正会員）

- ・NPO・市民活動支援共有ミーティング「わくわく会議」
- ・市民ファンド/コミュニティ財団の集い

オ 寄付啓発事業

(10) ファンドレイジング事業

①遺贈寄付

②寄付つき商品

◇ASAHI-MITSUHASHI 基金

朝日ゴルフ株式会社様に同社の健康器具「ごるトレ」「ボディトレ」を寄付つき商品として頂き、売上からご寄付を頂いた。

これを基にした「ASAHI-MITSUHASHI 基金」は、2022 年度助成（2022 年 4 月～2023 年 3 月）はコロナ関連支援の「ひょうご・みんなで支え合い基金」に統合し、子ども・医療関連支援の枠として公募した。2023 年度助成（2023 年 4 月～）は新設の「ひょうご市民活動応援基金」に統合し、子ども・医療関連分野の枠として公募した。

それぞれの事業内容については、(5)「ひょうご・みんなで支え合い基金」、(4)「ひょうご市民活動応援基金」を参照。

◇夢工房株式会社

夢工房株式会社様に同社の健康管理ソフトウェアを寄付つき商品として頂き、売上からご寄付を頂いた。前項と同様、2022 年度は「ひょうご・みんなで支え合い基金」に、2023 年度は「ひょうご市民活動応援基金」に統合し、いずれも子ども関連の助成枠として公募した。

(担当：実吉、永田)

(11) 10周年記念事業

当法人は2023年6月6日に法人設立満10年を迎えた。これを記念して2023年秋に10周年記念行事を実施すべく、理事、事務局スタッフによるタスクチームを結成し、準備を進めた。新年度の11月に記念フォーラムを開催し、併せて記念募金も実施予定である。

(実施概要)

○10周年記念フォーラム

日時 2023年11月25日(土) 15:00～19:00

場所 ラッセホール(元町)

○10周年記念募金

3. 組織

(1) 役員、評議員、顧問、専門アドバイザー等の状況

【評議員】

今年度は非改選期であり、全員が継続した。

(任期：2020年9月10日～2024年度評議員会終了時)

評議員 加藤恵正	評議員 木田薫	評議員 中田豊一
評議員 早瀬昇	評議員 三井ハルコ	評議員 松田道子
評議員 中山光子	評議員 室崎益輝	

【理事】

1) 2022年9月28日開催の定時評議員会において下記の通り改選された。

(任期：2022年9月28日～2024年度評議員会終了時)

理事 実吉威 (代表理事)	理事 西河紀男 (代表理事)
理事 島田雄三 (副代表理事)	
理事 永田譲蔵 (2023.3.31まで業務執行理事、以降は理事)	
理事 岡村こず恵	理事 河合将生
理事 武田良彦 (~2023.3.28)	理事 竹森莞爾
理事 田中裕子	理事 冬頭佐智子 (新任)
理事 村上英樹 (~2023.6.30)	

(退任)

理事 小森星兒 (代表理事)

2) 任期途中の選任・退任

理事 藤井洋一 (2023.3.28就任)
理事 武田良彦 (2023.3.28退任)
理事 村上英樹 (2023.6.30退任)

【監事】

2022年9月28日開催の定時評議員会において下記の通り改選された。

(任期：2022年9月28日～2024年度評議員会終了時)

監事 重田和寿 監事 宮崎洋彰

【顧問】

今年度は任期途中であり、既に選任されている2人が継続した。また1名を新たに選任した。

(任期：2020年8月21日～2024年度7月以降最初の理事会終了時)

顧問 田中茂 顧問 出口正之 顧問 小森星兒 (新任、2022.12.16就任)

【専門アドバイザー】

阿部陽一郎	石田祐	荻野俊子	川中大輔
行司高博	久戸瀬昭彦	久保幸一	佐藤等史
茶野順子	長沢恵美子	畑本康介	馬場英朗
細谷崇	松井薫	渡辺元	

【事務局ボランティア】

西池陽一

安井毅

(敬称略)

(2) 会議

【評議員会】

- 2022年9月28日 第14回定時評議員会（ひょうごコミュニティ財団2階会議室）
- 出席評議員 8名中6名
- 審議事項 1. 2021年度決算案承認の件
2. 役員選任案承認の件
3. 「ひょうご市民活動応援基金」選考委員選任の件
- 2023年3月14日 第15回臨時評議員会（みなし決議の方法により開催）
- 審議事項 1. 理事選任案承認の件
2. 定款変更案承認の件

【理事会】

- 2022年9月2日 第48回理事会（ひょうごコミュニティ財団2階会議室）
- 出席理事 11名中7名（監事2名出席）
- 審議事項 1. 2021年度事業報告案承認の件
2. 2021年度決算案承認の件
3. 2022年度定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項の決定の件
4. 故中村毅一郎氏の遺贈寄付の取り扱いについて
5. 「働き方改革プロジェクト」の位置づけ確認ならびに役員報酬変更案承認の件
- 2022年10月14日 第49回理事会
（ひょうごコミュニティ財団3階事務所での実参加およびWeb参加）
- 出席理事 11名中8名（監事2名出席）
- 審議事項 1. 役付理事選定案承認の件
2. 特定費用準備資金取扱規程案承認の件
- 2022年12月16日 第50回理事会
（ひょうごコミュニティ財団3階事務所での実参加およびWeb参加）
- 出席理事 11名中9名（監事2名出席）
- 審議事項 1. 臨時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項の決定の件
2. 第2号議案 顧問選任案承認の件

3. 「ひょうご市民活動応援基金」 選考委員選任 の件
4. 特定費用準備資金（特費）積立案承認の件

2023年3月14日 第51回理事会（みなし決議の方法により開催）

- 審議事項 1. 臨時評議員会のみなし開催およびその目的である事項の承認の件

2023年6月16日 第52回理事会（ひょうごコミュニティ財団2階会議室）

出席理事 11名中8名（監事1名出席）

- 審議事項 1. 2023年度事業計画案承認の件
2. 2023年度予算案承認の件

【ビジョン会議】 ※昨年度、「評議員・役員合同会議」としてスタートしたものを改名

2023年5月26日 第2回ビジョン会議

（あすてっぷ KOBE〈神戸市男女共同参画センター〉 セミナー室3）
計19名（顧問3名、評議員4名、理事8名、監事2名、職員2名）

【茶話会】

2022年7月22日 第2回茶話会（秋毎ビル3階当財団事務所での実参加およびWEB参加）

2022年8月31日 第3回茶話会（団体見学：性暴力被害者支援センター・ひょうご、NGO 外国人救援ネット、ウィメンズネット・こうべ）

(3) 組織の基盤整備

2021年度に整えた常勤職員2名体制を維持し、事業を推進した。引き続き常勤職員1名の採用に向けて準備を進めている。

2022年度事務局体制・職員一覧

代表理事	実吉威（事務局責任者）		
業務執行理事	永田讓蔵（～2023.3）		
常勤職員	福田和昭	大田哲三	
非常勤職員	奥田裕之	安本里奈（～2022.8）	安田悦子（2022.9～）
	長澤潤一郎（2023.1～）	立石実希※	

※：短期アルバイト

〈資料編〉

(2) 有園博子基金

〈第5期採択団体一覧〉事業期間：2023年4月1日～2024年3月31日

【活動応援コース】			
団体名	事業名	所在地	採択額
尋の塾	女性と子どもの健康と安全を考える研究会	芦屋市	200,000
【組織基盤強化コース】			
団体名	事業名	所在地	採択額
(一社)神戸ダルク・ヴィレッジ	子ども時代に虐待を受けた薬物依存症者の回復支援活動の基盤づくり事業	神戸市長田区	1,000,000
CocoKara ルームそら	生きづらさを抱えた人々の身体とこころを「つなぐ」看護師×臨床心理士による任意団体ルーム「そら」設立に伴う組織基盤構築プログラム	明石市	819,000
(特活)こどもサポートステーション・たねとじづく	法人の運営基盤整備と支援者の研修ケア体制の整備	西宮市	777,000
(特活)男女共同参画ネット尼崎	地域で頼られる法人となるための「組織基盤強化」	尼崎市	675,000
合 計			3,471,000

(3) 真如苑・ひょうご多文化共生基金

〈第7期採択団体一覧〉事業期間：2023年4月1日～2024年3月31日

地域	団体名	事業名	所在地	採択額
神戸 阪神	(特活)Oneself	ルーツを持つ方を対象とした食糧品支援及び地域活動への参画促進事業	神戸市兵庫区	300,000
	こうべ子どもにこにこ会	多文化フェスティバル深江・キッズカフェ&多国籍料理	神戸市東灘区	200,000
	(特活)ガルーダ・ジャパンコミュニティ	在留外国人の生活環境改善推進事業	神戸市灘区	300,000
神戸 阪神 外	にこにこ日本語教室	にこにこポルトガル語教室	加古川市	200,000
	(特活)多文化センターまんまるあかし	外国人住民を情報弱者にしないための地域密着型多言語情報発信事業	明石市	150,000
	なかよし「加古川マダン」開催実行委員会	第21回なかよし「加古川マダン」	加古川市	120,000
	(特活)りとるめいと	真如苑・ひょうご多文化共生基金	養父市	100,000
計				1,370,000

(4) ひょうご市民活動応援基金

〈第1期〉事業期間：2023年4月1日～2024年3月31日

中村毅一郎・婦美乃基金、ASAHI-MITSUHASHI 基金 [子ども分野]			
団体名	事業名	所在地	採択額
(特活)全国夜間中学ネット	学習支援塾 不登校支援 エデュケアながた	神戸市須磨区	500,000
(一社)enGrab	中高生のための居場所づくり事業	尼崎市	500,000
(公財)神戸YWCA	神戸YWCA子ども日本語トータルサポート「はっぴーすくーる」	神戸市中央区	500,000
(特活)西脇とてど広場	生きづらさを抱えた子どもの学習サポート事業	西脇市	200,000
(特活)あんずぼこ	不登校になった子どもの社会的自立に向けた具体的支援	西宮市	200,000

(特活)HIKIDASHI	若者たちに正しい性の知識と気軽な相談場所を届ける「出張ユースカフェ事業」	明石市	200,000
(一社)さとのわ	不登校児童支援フリースクール等連携事業	神戸市西区	320,000
(特活)こどもコミュニティケア	発達障害児が小学校生活スキルを身につける「スクール・トライアル」プログラムの実施	神戸市垂水区	380,000
(特活)みらぼて	親と子の居場所づくり	小野市	200,000
小計			3,000,000
岸鶴夫基金、光子基金 [高齢者分野]			
団体名	事業名	所在地	採択額
(特活)鶴甲サポートセンター	高齢者コミュニティ事業の継続	神戸市灘区	100,000
(一社)パートナーズ	兵庫区コミュニティ活性化プロジェクト	神戸市中央区	200,000
(特活)播磨オレンジパートナー	「安心」を地域住民に伝える事業	たつの市	200,000
(特活)ボランティアアユート	介護予防・日常生活支援事業	三田市	100,000
小計			600,000
實吉一夫基金、匿名基金 [その他の分野]			
団体名	事業名	所在地	採択額
(公社)兵庫県精神福祉家族会連合会	兵家連の組織強化のために	神戸市中央区	280,000
(特活)神戸アイライト協会	視覚専門相談リハ事業「神戸市外視覚障害者支援事業」	神戸市兵庫区	400,000
(特活)月と風と	ミーツ・ザ・新喜劇～しょうがいがある人もない人も一緒にコケよう！～	尼崎市	470,000
(一社)ケアと暮らしの編集社	シェア型図書館を拠点に健康相談等に応じる社会的処方活動	豊岡市	450,000
小計			1,600,000
合計			5,200,000

(8) 他の基金等の事務局受託等

①住友ゴム工業 CSR 基金 採択団体一覧

〈2022 年度〉

(単位：円)

	団体名	地域	助成金額	備考
1	(特活) 日越交流センター兵庫	神戸市	300,000	継続
2	ひょうごラテンコミュニティ	神戸市	300,000	継続
3	(特活) 兵庫県障害者タンデムサイクリング協会	西宮市	300,000	継続
4	(特活) ささゆり会	加古川市	279,000	継続
	計		1,179,000	

(7) 市民活動団体への非資金的支援事業

③「認定 NPO 法人相談窓口事業」(神戸市委託) の受託・実施

	日にち・場所	テーマ	講師	人数
1	7月28日(木) 神戸市婦人会館/オンライン	認定 NPO 法人制度入門講座	大島一晃(認定 NPO 法人相談窓口事業担当) 中山迅一((認定特活)まなびと理事長)	14名
2	8月3日(水) 神戸市婦人会館/オンライン	監事スキルアップ講座	宮崎洋彰(公認会計士・税理士)	13名

3	8月9日(火) 神戸市婦人会館/オンライン	認定 NPO 法人申請のための、「NPO 法人の運営基礎」確認講座	奥田裕之(認定 NPO 法人相談窓口事業担当)	14名
4①	11月21日(月) 中央区文化センター	認定 NPO 法人を目指す団体向けの「会計」スキルアップ講座①正しい会計と仕訳の基礎	村上義弘(NPO 会計支援センター 会計アドバイザー)	17名
4②	11月28日(月) 中央区文化センター	認定 NPO 法人を目指す団体向けの「会計」スキルアップ講座②出納帳から決算書作成へ	村上義弘(NPO 会計支援センター 会計アドバイザー)	16名

④「地域課題に取り組むNPO等に対する運営支援業務(神戸市委託)」

1) オンライン学習会「おはなしカフェ」

〈第1シリーズ〉全5回+1回、

	日にち	テーマ	講師	人数	団体数
—	11月7日(月)	Zoom ことはじめ講座	実吉威(当財団代表理事)	6名	3団体
第1回	11月16日(水)	【資金】NPOの資金調達とは	実吉威(当財団代表理事)	12名	11団体
第2回	11月24日(水)	講師都合により中止			
第3回	11月30日(水)	【実務】会計のお悩み、うかがいましょう	荻野俊子(NPO 会計支援センター代表)	11名	9団体
第4回	12月7日(水)	【資金】「助成金」のイロハ	実吉威(当財団代表理事)	14名	13団体
第5回	12月14日(水)	【実務】監事の役割、カンジんな役割	宮崎洋彰(公認会計士・税理士)	12名	7団体
第6回	12月21日(水)	【ネットワーク】NPO セクターをめぐる最新動向	吉田建治((認定特活) 日本 NPO センター事務局長)	13名	10団体

〈第2シリーズ〉全6回

	日にち	テーマ	講師	人数	団体
第1回	1月11日(水)	【実務】NPOのための会計&事務あれこれ	実吉威(当財団代表理事)	9名	9団体
第2回	1月25日(水)	【ネットワーク】NPO、私はこう始めました!	河野由希((特活) てんびん代表)	9名	7団体
第3回	2月8日(水)	【なんでも相談会】会計・資金・その他	実吉威(当財団代表理事)	7名	5団体
第4回	3月8日(水)	【実務】電子帳簿と消費税・インボイスについて	宮崎洋彰(公認会計士・税理士)	9名	7団体
第5回	3月15日(水)	【実務】ITを使いこなそう	細谷崇(ht代表)	13名	11団体
第6回	3月29日(水)	【ネットワーク】NPO、私は仲間・参加者をこうやって集めました!	唐津周平((一社) みくもや理事)	11名	9団体

2) 組織基盤強化セミナー(「NPO 実践セミナー」全4回)

	日にち・場所	テーマ	講師	人数	団体
第1回	2月10日(金) こうべまちづくり会館2Fホール	①広報実践講座-人と信頼と寄付が集まる「広報」とは	和田武大(デザインヒーロー代表)	18名	13団体
第2回	2月28日(火) オンライン	②NPOの資金調達講座-NPOの資金調達(ファンドレイジング)の基本を学ぶ[1日目]	河合将生(office musubime 代表)	24名	17団体
第3回	3月7日(火) オンライン	③NPOの資金調達講座-NPOの資金調達(ファンドレイジング)の基本を学ぶ[2日目]	河合将生(office musubime 代表)	19名	17団体
第4回	3月24日(金) オンライン	④『協力のテクノロジー』を学ぶ-NPOの持つ強みを再確認し、使いこなそう	松原明(「協力世界」代表)	19名	17団体